

「一帯一路」で北東アジア地域のインフラ建設を推進する

中国商務部国際貿易経済合作研究院アジア研究所長

宋志勇

2013年の9月と10月、習近平国家主席は中央アジア・東南アジア諸国を訪問中、「シルクロード経済帯」及び「21世紀海上シルクロード」を共同で建設する戦略的な構想を相次いで提起した。この構想の提起は、国際社会から大いに注目され、関係する国家は積極的に呼応した。2015年3月、中国は正式に「シルクロード経済帯と21世紀シルクロードの共同建設推進のビジョンと行動」を公布した。

中国の経済発展の状況からみると、中・西部、内陸地域と沿海地域の発展は極めて不均衡である。「一帯一路」の構想を通して、中国の西部内陸地域と各国の相互通行を強化して、西部地域の貿易と経済発展を促進し、東部と西部の発展を平衡にすることができるだけでなく、地域内のインフラの建設や各国の経済貿易の往来を強化することを通して、各国の発展イニシアチブとの連携を推進し、相互の投資を促進し、それによって各国の文化理解を強化し、人文交流を促進し、各国人民の友好的な関係のために文化・経済交流のプラットフォームを提供することができる。同時に、各国の経済協力と往来の過程のなかで、グローバル経済発展のために動力を提供し、エンジンを充当して、中国の世界経済における影響力を高めることになる。

北東アジア地域と「一帯一路」は密接な関係があり、素晴らしい協力の見通しが広がっている。北東アジア地域には、日本や韓国などのような先進国だけでなく、中国やモンゴルなどの発展途上国もある。しかも、北東アジア地域は資源エネルギーが非常に豊富にある地域で、各国間で協力を強化することを通じて、利点を相互補完することができる。現在、各国は「一帯一路」に対して比較的積極的な態度をとっており、当該国の戦略と「一帯一路」戦略の連携を望んでいる。例えば、韓国が提起した「ユーラシア・イニシアチブ」やモンゴルが提起した「草原シルクロード」、ロシアの「ユーラシア経済同盟」、重視されている中モロ経済回廊などがあり、日本政府や企業も「一帯一路」構想に注目している。さらに、北東アジア各国は現在、積極的に地域経済協力を推進している。例えば、韓国はすでに中国とFTAに調印し、中国・日本・韓国間でもFTA交渉を進め、モンゴルと日本はEPAに調印するなど、この地域では各国協力のために条件を作成していることも無視できない。したがって、北東アジア地域の協力空間は将来的に非常に広がりがある。

現在の状況からいえば、北東アジア地域はインフラ面で協力を強化することができる。第一に、相互通行の協力メカニズムの確立により、同業者の連携や企業協力を推進する。第二は、立体交通ネットワークを作り、国境地域の道路や鉄道と複合一貫輸送の大ルート建設を早め、完全な航空路ネットワークを構築する。第三はエネルギー大ルートを構築し、石油・ガスパイプラインの建設を速やかに推進し、越境電力網の建設を切り開く。第四は、情報の高速ラインを建設し、インターネットの普及を推進して情報の交流をさらに便利にし、コストもさらに安くする。

[中国語原稿をERINAにて翻訳]